

平成26年度第2回西箕輪地域協議会会議録

開催日	平成26年10月23日(木)					
開催時間	開会	午後7時00分	閉会	午後8時15分		
開催場所	西箕輪ぬくもり館 第3、第4会議室					
		委員氏名			委員氏名	
	1	清水重良	出	11	伊藤節子	出
	2	有賀澄夫	出	12	有賀清	出
	3	重盛正	欠	13	笠松悟	欠
	4	早川正行	出	14	伊藤由美子	出
	5	唐澤茂門	出	15	原幸利	欠
	6	伊藤光雄	出	16	小林光豊	欠
	7	酒井雄保	出	17	山口通之	出
	8	倉澤邦弘	出	18	唐澤千文	欠
	9	吉野弥生	出	19	赤沼利光	出
	10	大月温子	出			
署名委員	早川正行			唐澤茂門		
条例第10条の規定により出席した者						
市側の出席者	企画情報課 宮原主幹 中村主査					
出席した事務職員	唐澤西箕輪支所長					
協議事項	(1) 地域自治区の今後のあり方について (2) その他					
配布資料	・地域自治区のあり方の検討について					

■ 概要

1 開会 地域協議会事務局

2 あいさつ 赤沼会長

3 会議録署名委員の指定 4 番委員 早川正行委員 5 番委員 唐澤茂門委員

4 協議事項（進行：赤沼会長）

（1）地域自治区の今後のあり方について

企画情報課より資料に基づき説明する。

（質疑応答）

（委員） 審議会の日程はどうなっているか。

（市） 当初6回を予定し、これまで4回開催した。6月に市長から白紙諮問し年内答申を目指している。市長が答申を尊重するなかで方針を決定し、議会に報告する。

（委員） 現状と課題の中で、「高遠町、長谷自治区では、地域協議会が「議会に代わる大切な機関」と位置付けられている。」とあるが、高遠町、長谷地区では議会が機能していないということか。

（市） 伊那市議会は市の事、地域の事を考えて動いている。高遠町、長谷地区では地域協議会の時に地元議員と一緒に同席している。それぞれ議会があったが、合併のため今はなくなっているし、議員の数も減っている。高遠町、長谷地区地域協議会の会議では総合支所の全課長が出席し、課題について答弁している。事実上議会形式（旧両町村の議会に代わるもの）のような認識がある。

（委員） 合併により両地区の声が届きにくくなったということで、議員だけではだめということでは。

（市） 地域（地域協議会）の声を行政に反映させるという手法の一つである。

（委員） 合併前のH17に地域自治区のあり方の審議委員会があり、自分は委員であった。一番問題になったのは、2つの違った制度のもとで、地域の自立を図るということだった。しかし、審議会の始まる前に既に2つの違った制度を取り入れることは決まっていたので、そういうことがいいか悪いかの審議ができなかったのが、非常に残念であった。また、地域協議会が何を指すのかということ（意義が）大切だが、伊那市では、住民が地域を作っていくという地域の自立が一番大切との意見が多く出された。その他にもいろいろ意見が出たが、最終的には制度は違っていろいろ問題はあるが協議会を作ってやっという結論となった。初めてから8年経過した。

今までずっと地域協議会の委員であったが、1つの市の中にありながら、違った制度のもとで動いているというのは非常に不自然だと思われる。地域の思いはあると思うが、合併したからには同じ制度の元で伊那市を作っていくとい

う認識が大切だ。総合支所は予算執行権もある程度あるし、総合支所長がいて、職員も多くいる。(1つの市の中に)そういうアンバランスがあるのは間違いではないかと感ずる。人口は、両地区とも西箕輪より少ない。

地域協議会は、地域の課題等を検討し市に反映させたり、地域の結束を図っていく必要がある。区長会では目の前の日々の課題が多すぎて出来きれない部分がある。地域協議会をなくすのは簡単だが、この組織をどう生かしていくかが大切だと思う。いろいろ工夫して(地域協議会を)存続させたらどうかと思うが、2つの違った組織は良くない。

市で各地域協議会への諮問が必要だったのでは。市の方でいろいろな検討事項を地域協議会へ諮問してほしい。今回の問題にしても、ここで出された意見は審議会の中ではなかなか反映されない。市は住民(の意見)を大切にしていない。各地区に高遠町、長谷のように予算自治権をもたせてもよいと思う。

(委員) 全国にはいろいろなスタイルがあるが、倉敷市では多額ではないが予算を各地区に配分している。伊那市では総合計画についても出来上がったものを、地域協議会にかけるだけという通過地点的な手法である。1から住民の意見を聞いていくことができていない。西箕輪では区長会があるので、その上に地域協議会があっても地域協議会は機能するかという問題がある。区長会は毎月開催されているが、地域協議会は年に何回しか開催されていないし、区民の皆さんの接点は区長会である。

(委員) 2つの法的に異なる地域協議会ということと、組織も予算執行権も旧市と高遠町、長谷では大変ばらつきがある。高遠町、長谷地区の地域協議会は議員以上に地域の意見を集約して市に持ち上げる場となっている。そういうことがあるので、旧市と両地区では融和が図れない。両地区の事は、すべて聞いているが、旧市の要望は予算がないということで後回しにされている感が強い。この時期まで来たら、同じスタイルに組織等をするべきだ。今のままでと非常に不公平である。西箕輪より人口の少ない両地区の方に市は目を向けすぎている。ここまできたら、市は、高遠、長谷でなく市全体を見るべきだ。対等合併なので、合併前の財産も両地区で使うことなく、市全体で使うべきだ。両地区は一緒になって仲良くしようという気持ちがない。両地区は、自分のことばかり言っているが考え方を変える必要がある。

(委員) 同じという発言あり。

(委員) 10年間というのは「お互いになじみなさいよ。」という期間なので、これですべて同じにすればよいのでは。1本化が必要。市議会議員選挙の時に高遠町、長谷地区では議員がなくなるという心配もしているので組織を残したいという話も聞いた。

(委員) 合併時、高遠町、長谷は伊那市に入れて欲しいということであったか？
それとも法的に小さい市町村は合併しなさいということだったか？

(市) 市町村の適正規模があるが、ある程度の人口規模の中で効率的な運用ができ

る。合併することによって自治体が強化され機能が確保できるということで、国が合併を押し進めたが、それぞれの市町村で財政シュミレーションを行い、合併することが得策だということにより合併を決めた市町村もある。そういう中で当時合併ということとなった。

(委員) 合併当時、高遠町、長谷村は伊那市と合併しなければ破たんしてしまうということだったのか。合併することにより破たんを免れるということも合併した一つの要因であったのか。

(市) そういう思いもあったと思う。

(委員) そういうことで10年が経過した。伊那市に合併することで、両地区が活性化できるという形できているので、同じ土俵の中で同じことをすることにより、伊那市を盛り上げていくということが基本的な考えだと思う。両地区のみ配慮するようなことをしていると、他の地区から反発がでてきてしまう。一つの伊那市として同じような行政の手法でやっていくということがよい。

(市) 一体感の醸成ということは必要で大切なことである。せっかく合併したのにバラバラな意識を持っているのはよくない。

(委員) 資料を見ると、高遠町、長谷には「建議」という強い言い回しとなっている。西箕輪は要望となっている。同じ伊那市でこのようなことが続くのはおかしいし、まかり通っていることが不自然である。法律で言えば、法の平等に抵触する。

(委員) 必要か。必要でないか。ということだが、区長会が機能している中で、こういう協議会が必要かどうか。また、自分はA団体の代表として委員となっているが、団体の意見をまとめる必要があるかどうか。

(委員) 意見を聞くことは良いが、年末までという期限が区切られているので・・・

(委員) いろいろと意見はあるが、総体的にみると地域協議会はあった方がよい。どういう形にしていくかは、これから話し合っていく必要がある。

(委員) 今日の話の中で、この協議会はあった方がよいという結論か。

(議長) そういう結論は出ていない。いろいろ出た意見を市の審議会の中で反映させていく。

(市) 地域協議会を活かしていくために、市の積極的な働きかけが必要との意見をいただいた。地域協議会は不要という方もいると思うが、地域協議会の役割、機能向上のお話があったら。

(委員) 長谷の高速バス廃止について長谷地域協議会の議題としてあるが、今は運行しているか。

(市) 廃止となっている。

(委員) 言葉だけでなく、実際に地元の人たちが利用しなければだめだ。高速バスに限らず(路線バスも)、存続するために自分たちが利用しなければという風に変え方を考えていく必要がある。

(委員) 今日ここで、西箕輪としての方向性を出したほうが良いのか？

- (議長) そこまでは要求していない。いろいろ意見を出していただき、市の審議会につなげていくということだ。いろいろ意見をお願いしたい。
- (委員) 市は次年度に向けて補助をだんだん減らしているという話がある。市の次年度の重要な市政方針を決める前に、地域協議会の意見を聞くべきだ。資料を読めと言っても難しい。伊那市はこういうことを考えているが、西箕輪はどうだという機会を持ってもらいたい。総合計画後期五か年計画でもそうだが、大枠が決まる前に説明してくれれば団体へも相談ができるが、そういう手法でない。市と住民が乖離しているということを感じず。阿智村では、事前に住民に相談している。そうなれば住民に責任も出てくるし、自分も市政に参加しているという気持ちも出てくる。これから人口が減少してきていろいろ問題が出てくるが、そういう課題を地元投げかける必要がある。これらのいろいろなことを地域協議会で話し合う必要がある。
- (委員) 先ほど市議選で高遠町、長谷の議員がなくなるという危機感の話があった。国政のような選挙区があれば、高遠町、長谷でも議員が存続することができる。このようなことは可能か。
- (市) 合併直後の選挙は高遠、長谷から何人という枠があったが、それ以後は全市的な選出方法となっている。現状は、高遠から2人、長谷から1人選出されている。市議会議員なので、全市的なことを考えてもらうのが基本である。地域の代表ということもあるが、市全体の議員なので長谷でいなくなったので、長谷の事は考えないということはない。
- (委員) 市議会議員なので市全体からということだが、国会議員、県議員は選挙区がある。必要なので選挙区という制度があるのでは。市議会議員も9つの選挙区として伊那市の9つの地区(自分の地区)の事を考えることも重要なんだよということも考えられないか。
- (議長) 市議会議員は市全体の事を考えるということ。国会議員も地域割りはあるが国全体の事を考えるということが基本である。その中で地区の事も考えるということもある。地元住民にすると、地区に議員がいて欲しいということはあると思う。
- (委員) 国県議員選挙の定数は、面積割と人口割で決めているが、市議会議員選挙はそういうことでない。ただし、合併時は地区割りがあったが、2回目からは全市的な選挙とし、定数も減らした。市議選の地区割りは選管で決めれば可能なような気がする。
- (委員) 26人から21人になる時もこの地域協議会で議論した。
- (議長) いろいろとご意見をいただいた。この意見については、審議会につなげていくと思うのでその推移を見ていきたい。この議題については以上とする。

(2) その他について

(議長) 事務局からはないようだが、みなさんから何かあるか。

なければ、1点お願いしたい。支所のサイレンだが、長い間鳴らしていたが公民館が新しくなってなくなり不便という話がある。廃止については、地域協議会で決定してもらった経過がある。そういう中で、市の防災無線は地域のローカルの(西箕輪だけ流すこと)には可能か。11時30分にサイレンが鳴らなくて不都合だという話がある。西箕輪だけ11時30分に流すことは可能か。

(市) 技術的には可能と思われるが、それをやれるかどうかは担当課でないので分からない。

(委員) たしかにサイレンがなくなって都合が悪くなったという話はある。

(事務局) 経過についてだが、昨年3月の地域協議会で議論していただき廃止することとなった。サイレンの機能としては、11時30分になることと、以前は災害時に住民に知らせるという役目もあった。一方、防災無線が配備されたことや、近所の人にとっては子供がお昼寝から起きてしまうことや、学校でも授業の支障になるとの意見があった。そういう中で新公民館の設計時にサイレンをどうするかという議論をしていただいた。新しくサイレンを配備すると200万円の費用が掛かるということと、支所公民館の予算が厳しいということもあり、最終的には200万円を新支所公民館建設で有効的に使った方が良いのではないかという話となり、サイレンは止む無く廃止するという結論となった。いろいろと意見はあったが、新しい公民館にいろいろなものを整備するという意見の方が強かった。

(議長) 他にはないようなので以上で協議事項は終わりとする。

5 その他 なし

6 閉会 (事務局)

慎重審議、貴重な意見ありがとうございました。今後の審議会の推移を見守っていきたい。皆さんも新聞、テレビで結果を確認していただきたい。今日はありがとうございました。

会 長 赤 沼 利 光

会議録署名人 早 川 正 行

会議録署名人 唐 澤 茂 門